

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



目黒区

建物の文化的価値を活かした 「目黒区総合庁舎」

日本の高度成長期における建築家村野藤吾氏の代表作の一つである建物を改修し、2003(平成15)年に再生した「目黒区総合庁舎」は、「開かれた庁舎」として目黒区民のみならず多くの人たちに愛されています。

文化的価値を尊重して改修再生

目黒区総合庁舎は、かつて千代田生命保険相互会社の本社ビルでした。

1966(昭和41)年5月末に竣工したこの建物は、日本の高度成長期における建築家村野藤吾氏(1891~1984)の代表作の一つとして知られています。

総合庁舎としては、2002(平成14)年4月から改修工事を開始しました。長年愛されてきた広場や池、緑、優美な外観など、その文化的価値を活かし「開かれた庁舎」として2003(平成15)年1月に再生しました。目黒区総合庁舎には現在、目黒区役所各窓口のほか、東京法務局、都税事務所、休日診療所や子育てふれあいひろばなどの施設が入り、区民の暮らしを支えています。

柔らかな質感の印象的な建物

改修により中央の石畳の広場は駐車場に、緑の庭の一部は道路を通すため切り取られましたが、建物の内外に建築家や職人、美術家による協働の結晶が見られ、竣工当時のたたずまいを今に伝えています。見学時に特に目玉となる施設は、本館2階から4階の3フロアをつなぐ「らせん階段」です。このらせん階段は、「階段の魔術師」と言われた村野氏の代表作の一つです。その他にも南口玄関車寄せひさしや南口エントランスホール、渡り廊下、アルミ鋳物のたて格子が包む外観、和室と茶室などさまざまな見どころがあります。

後世に残る施設を目指し維持

訪れた人たちに親しまれる開かれた庁舎として、建物を利用したウェディング事業やロケーション誘致事業なども行っています。まもなく竣工後57年を迎える総合庁舎は、建物や設備の経年劣化を課題と捉えています。故村野藤吾氏が情熱を傾けた文化的価値の高い建築物である事を踏まえ、美観を損なうことなく、建物として維持保全や設備面での機能の向上に力を入れ、後世に引き継ぐ施設を目指しています。



↑アルミ鋳物のたて格子の外観



↑庁舎でのウェディング



↑らせん階段



↑ビルの中とは思えない茶庭と茶室



↑「心」の字の石組みのある中庭の池

ここも見どころ

- 目黒十五(とうご)庭(屋上庭園)
1,120.11平方メートルという広さに、グランドカバープランツエリア、新種屋上緑化植物エリア、芝生・キッズパークエリア、目黒野菜畑、和風庭園エリアと多様なエリアのほか、盆栽仕立てのゴヨウマツがあります。



↑屋上庭園の芝生・キッズパークエリア

目黒区総合庁舎

所在地 目黒区上目黒2-19-15
開庁時間 8:30 ~ 17:00
(祝日・休日および12/29 ~ 1/3を除く)
アクセス 東急東横線・東京メトロ日比谷線中目黒駅より徒歩5分
お問い合わせ 03-3715-1111(代表)